

## 第3回東海村“自分ごと化”会議 「改善提案シート」

第2回から第3回の東海村“自分ごと化”会議で参加者が記入した「改善提案シート」の内容を、以下のとおり分類しました。

### ■「現状の課題」分類まとめ

<b>1. 原発の安全性</b>
① 避難計画・ルートが十分でない（安全に避難できるのか）
② 原発の安全性がまだわからない
<b>2. 今後のまちづくり</b>
① 東海村の今後のまちづくりについて議論が足りていない
② 原子力に代わる新たな東海村の魅力の創出が必要
③ 東海村の特徴と魅力が十分に理解されていない
④ 交付金の使い道がまちづくりに活かされていない
⑤ 交付金がなくなることを想定した議論がされていない
⑥ 原発の廃止とその後について議論がされていない
<b>その他</b>

# 1. 原発の安全性

課題 ①		避難計画・ルートが十分でない（安全に避難できるのか）
改善提案	個人の取り組み	<p>■東海村広域避難計画に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難にあたって行政に準備しておいてほしい（事前配布してほしい）ものを提案する。また、周囲からも意見を集める。</li> <li>・ 原発があることのリスク（デメリット）とメリットを見比べて、自分の意見を持つ。</li> <li>・ 避難訓練に参加し、避難先などを確認し、改善に向けた意見・課題を挙げる（有事の際の考えるきっかけ、行動につなげる）。</li> <li>・ 避難計画の改善策を提案する。</li> </ul> <p>■避難ルート，避難方法に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練に参加する。</li> <li>・ 自分の避難先，避難ルートを予め下見しておく。</li> <li>・ 村のルールを家族内で共有し，家族での行動を決めておく。</li> <li>・ 別居している家族がいる場合も，それぞれの家庭での行動を決めておく。</li> <li>・ 家にある車一台は避難用の車に決めておき，日常に使いながらも，燃料に余裕を持たせ，車内に避難先で必要となる物資を用意しておく。</li> <li>・ （災害時は、）自家用車での移動だと渋滞を招くので，公共バスを利用する。</li> </ul>
	地域の取り組み	<p>■東海村広域避難計画に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練へ地域として参加する機会を設ける。</li> <li>・ 避難訓練参加を呼びかけ，意見・課題・疑問点を集約し村へ提出する。</li> </ul> <p>■避難ルート，避難方法に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自力で避難できない人を手助け・保護する。</li> </ul> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （自治会などの）防災の取り組みをPRする。</li> </ul>

	<p>行政の 取り組み</p>	<p><b>■東海村広域避難計画に関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難計画は、何が不十分だと東海第二原子力発電所運転差止等訴訟裁判で判断されたのか、村民に明示する。</li> <li>・ 避難計画に専門家の意見を取り入れる。</li> <li>・ 避難計画の実行性を挙げる取り組みを継続して行う（避難訓練，シミュレーション）。</li> <li>・ 今後改善することを明記したうえで，一度計画を正式決定する。</li> <li>・ 実効的，具体的計画として策定，もしくは運用を開始する。</li> <li>・ 必要であれば計画更新／刷新する。また，定期的な見直しを行う。</li> <li>・ 避難計画についての学習と避難時の行動を考える機会を，学校教育の中に組み込む。</li> <li>・ [村・近隣市町村] 近隣市町村から，県に合同広域避難訓練実現の為の要請を継続して行う。</li> <li>・ [村・県] 渋滞対策及び避難計画を充実させる。現在計画している事故対策をわかりやすく住民に伝えて避難計画と連携できるように取り組んでほしい。</li> <li>・ [県] 各市町村に避難計画の策定を促す。</li> <li>・ [国] 災害発生時の補償について，福島第一原子力発電所事故を例に検討し，稼働までに住民に説明する。</li> </ul> <p><b>■避難ルート，避難方法に関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難ルートは本当に安全なのか不明確。説明を丁寧にする。</li> <li>・ 津波や地震で道路が寸断された場合も含めて考えた避難ルートの検討を行う。</li> <li>・ 高速 IC の入口まで，避難専用道路をつくる。</li> <li>・ 避難時の一時集合場所が一目で判るよう，看板を設置し「見える化」する。</li> <li>・ 村民のスマートフォン等に避難所の情報を配信し，随時更新していく。</li> <li>・ 避難用の自家用車は常に燃料に余裕を持たせ，避難時に必要な物資を積んでおく等，避難行動を意識づけするための情報発信を行う。</li> <li>・ 自力で避難できない人の手助けをできる人材を確保する（医</li> </ul>
--	---------------------	--

		<p>師，ヘルパー等）。</p> <p>■避難場所に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所に各地で使われなくなった廃校を利用する（例：桜川市の紫尾小学校。駐車場も校庭があるので台数確保可能）。</li> <li>避難所に，新型コロナ等感染症とプライバシーを考慮して2㎡を超える専有スペースを確保する。</li> </ul>
	原子力事業者の取り組み	<p>■東海村広域避難計画に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政と協力し，広域避難計画策定と，実効性の向上（避難訓練，シミュレーション）などの改善に取り組む。</li> <li>いち事業者ではあるが，住民の安全には一定の責任があるので，警察や自衛隊との連携を強化する。</li> <li>事故発生時，速やかな状況報告を村・県・国に対し同時発信する体制をつくる（早急な決断の為にはリレー伝達ではなく同じ情報を共有することが重要）。</li> </ul> <p>■避難場所に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有事に備えたシェルターを整備する。</li> </ul>
	その他	<p>■東海村広域避難計画に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[専門家]ハザードマップや避難経路についての専門家視点の意見を出す（必ず第三者から見た状況把握が必要）。</li> </ul>

#### 課題①のその他の意見

##### ■東海村広域避難計画に関すること

- “案”でも可。なぜ“案”なのか住民が理解できていれば良い。
- 避難計画の目的は「避難が実現できるか」。訓練が重要だが数千人規模でも現実は無理であれば，スパコン等でシミュレーションを実施して，まず今のプランで避難が実現可能なのか確認してみてもどうか。
- 東海村（PAZ，5万人）は原子力に関する利点を受けているが，周辺自治体（UPZ，87万人）は特に直接的な利点を受けていないにもかかわらず，広域避難計画等を制定しなければならない（言い方は悪いが，デメリットしかないと思われかねない）。
- 避難計画が完成しなければ原電が再稼働できない。裁判では，いつまでも無理になってしまうと感じる。

##### ■避難所に関すること

- 全国にある限界集落を避難する場所にする事はできないか。避難先をあちこち移動するのなら，避難する集落を決めておいて，そこに自地区ごとまとめて避難するのはどうか。

課題②		原発の安全性がまだわからない
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人から情報収集し、周りと共有していく。</li> </ul>
	地域の 取り組み	
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震等災害発生時の村内放送などを充実させていく。</li> <li>ホームページなどで、新規制基準によってどれくらい安全になったのかを説明する。</li> <li>災害時の対応を分かりやすくする（マンガなどを使って）。</li> <li>安全対策費用にお金を費やすだけでなく、廃炉にする費用、または代替エネルギーに移行することを検討する。</li> </ul>
	原子力 事業者の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策工事の説明が不十分なので、住民への個別訪問等を充実させる。</li> <li>結局どれくらい安全になったのか、わかりやすく説明する。</li> </ul>

#### 課題②のその他の意見

- 安全審査の項目は承認認可されているが、見えない配管部分などに金属疲労による損傷があるかも知れない。国・事業者・原発メーカーは、安全審査項目以外の部分を含めて説明してほしい。

## 2. 今後のまちづくり

課題 ①		東海村の今後のまちづくりについて議論が足りていない
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度についての話よりも、“東海村をどうするのか”という意見をもっと皆から聞く。</li> <li>・ 地域貢献に取り組む。</li> <li>・ 村のいいところに気づき、知人等に発信していく。</li> <li>・ 今後のまちづくりの方向性の具体策, 産業創生に寄与できる方法を個人単位で考える。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海村の将来を地域で語る場をつくる。</li> <li>・ 自分たちで東海村の魅力となることを見つけ、村に伝え、協力してもらって盛り上げていく。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海村の将来を村として語る場をつくる。</li> <li>・ 原子力関係で、東海村の唯一性を活かせる方針を打ち出す。</li> <li>・ 東海村の特徴として原子力は大きな部分なので、もっと原子力を利用したまちづくりを進める。</li> <li>・ 研究機関が多く、全国的、世界的に人が来るので、それらの人が定住しやすい政策を立案する。</li> <li>・ 全住民へのアンケート等で、原子力に関する認知度を確認する。</li> <li>・ 原子力以外の魅力も情報発信していく。</li> <li>・ 具体的なまちづくりの方向性を村民・企業に示す。</li> <li>・ 現在の研究開発企業の拡大と、新規企業への誘致を図り、つくば市の学園都市やサンフランシスコのシリコンバレーのような街を目指す。</li> <li>・ 箱物は新しく作らず、今あるものを活用する・活用法を見出す。</li> </ul>

	<p>原子力事業者の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全についての重責への理解を前提として、まちづくりに協力する。</li> <li>・ 東海村でしかできないことを模索し、実施する。</li> <li>・ 原子力または原子力施設を利用した新しいエネルギー（水素等）への開発を支援する。</li> <li>・ 現在の研究開発企業の拡大と、新規企業への誘致を図り、つくば市の学園都市やサンフランシスコのシリコンバレーのような街を目指す。</li> </ul>
--	--------------------	--

課題①のその他の意見

- ・ 「賃貸住宅1戸建てに30年以上住み続けていると、その土地、建物が自分のものになる」という取り組みはどうか。

<p>課題 ②</p>		<p>原子力に代わる新たな東海村の魅力の創出が必要</p>
<p>改善提案</p>	<p>個人の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用済燃料の乾式キャスクについての安全性を学ぶ。</li> </ul>
	<p>地域の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「原子カムラ」から「原子カリテラシーが高い地域」へ。原子カスマートシティを目指す。</li> <li>・ 村の農業・産業・イベント等、魅力度を上げる為の企画を行う・情報発信する。</li> <li>・ 新たな魅力創出のための、周囲の様々な活動を歓迎し、受け入れる。</li> <li>・ 使用済燃料の乾式キャスクについての安全性を学ぶ。</li> </ul>

	<p>行政の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海村の人口の少なさ、面積の小ささを逆手に利用して、新たな地域交通手段の実証実験を行うことができるスマートシティを目指す。</li> <li>・ [村・県]ベンチャー企業等による実証実験を行いやすくするため、戦略特区などの認定を目指す。</li> <li>・ 輸出入の自動車専用車庫を設け、富士重工、日産栃木、コマツ、日立運輸の一大モータープールを建設する。</li> <li>・ [村・県・国] 他電力（関西電力等）の原子力発電所の使用済燃料を乾式キャスクで受け入れて保管する方向で、国・県・市町村と調整する。</li> </ul> <p><b>■代替エネルギーに関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子力を廃止しても大丈夫なように、他のエネルギーによる発電の低コスト化、安定供給、開発にどのように力を注いでいるかを国民に開示する。</li> </ul>
	<p>原子力 事業者の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若者が定住するよう雇用を確保する。</li> <li>・ 科学技術を活かして村の魅力づくりに貢献する。</li> <li>・ 現在の研究開発企業の拡大と、新規企業への誘致を図り、つくば市の学園都市やサンフランシスコのシリコンバレーのような街を目指す。</li> <li>・ 他電力事業者（関西電力等）の原子力発電所の使用済燃料を乾式キャスクで受け入れて保管する。</li> </ul> <p><b>■代替エネルギーに関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水素エネルギーなどの代替エネルギー活用の議論を進める。</li> <li>・ 原子力に替わる再生可能エネルギーだけで電力を賄えるように、低コストで効率良く発電できる研究開発に人材を投入・育成する。</li> </ul>

課題②のその他の意見

- ・ 原子力に頼らないまちづくりは以前からたびたび議題にのぼるが、具体的な案が提示され、実行されたことはないと思う。実現している事柄があるなら、もっと宣伝し村民に伝えてほしい。
- ・ 今、東海第二発電所で使用済燃料が入った乾式キャスクを保管している実績があるので、他電力（関西電力等）の原子力発電所の使用済燃料を乾式キャスクで受け入れて保管することで、一定程度の税収を確保できると思う。

- ・ 発電方法は原子力、再生エネルギー、火力などあるが、発電割合の大きい火力発電が、たとえコストが安くても使えなくなった場合にどうするのかといったことも考える必要がある。

課題 ③		東海村の特徴と魅力が十分に理解されていない
改善提案	個人の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海村の歴史を周囲と一緒に学び、郷土愛を深める。</li> <li>・ 村の強みについて学ぶ。</li> <li>・ 原子力に対する理解を深める。</li> <li>・ 原子力とは何なのかをまず子どもに教え、話し合い、次世代に伝えていく。</li> <li>・ 重要インフラを支えている村民であると自覚を持つ。発電に誇りを持つ。</li> </ul>
	地域の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとに”自分ごと化会議”を開催する等して、東海村への理解を深める(原子力事業のメリット・デメリットだけでなく、東海村行政の中での原子力の必要性を理解する)。</li> <li>・ 若者が定住するよう就職先を確保する。</li> </ul>
	行政の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原発、原子力の良いイメージの話ばかりではなくリスク、デメリットをもっと住民にアピールしていく。</li> <li>・ 移住者に対しても原子力の知識（利点とそのリスク）及び避難訓練等を通して、東海村の優れた福利厚生を受けるためには必要不可欠である原子力政策に対する理解を促進する。</li> <li>・ 若者に村の魅力を発見してもらい、郷土愛の育成に貢献する。</li> <li>・ 村内の小・中・高校において、原子力に関する理解を深める教育を行う。高校卒業後の定住率向上に繋げる。</li> <li>・ 村外に出た若者が戻ってきているか現状を把握するため、アンケート調査する（戻ってこない理由も聞く）。</li> </ul>
	原子力事業者の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海原子力館の充実を図る。</li> <li>・ 原子炉の中でおきている事を、簡単な言葉で表現する。</li> <li>・ 住民にとって応援できる事業者になる。</li> <li>・ 研究、仕事のブランドを高める。</li> <li>・ 再び原子力関連を魅力ある業種にする。</li> <li>・ 村内の小・中・高校において、原子力に関する理解を深める教</li> </ul>

		<p>育のサポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分達が住んでいる所にはどういうモノがあるのかという事を知ってもらうため、村内の学生へ施設見学を定期的を実施する。</li> <li>・ インターンシップや職場見学などを行い、地域に開かれた事業者であることをアピールする。</li> <li>・ 地域に根差した企業となるため、お祭り等のイベントを開催する（助成にも繋がる）。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メディア] 原発について感情論で報道せず、事実と数字で賛否の両論を報道する。</li> </ul>

### 課題③のその他の意見

- ・ 原子力発電が日本として必要であるというメッセージを発信していけないか。
- ・ 地域の特徴は、地理的なものを除けば、歴史によって構成されるものが主であると思う。東海村の特徴は、原子力産業であることは間違いない（虚空蔵尊などもあるが）。その強みを生かさずして、この東海村をどうしたいといった議論を進めることはできないと思う。  
逆に原子力を村（村民）として反対している人は、どのような東海村を思い描いているのか。具体案のない反対は無責任だと思う。
- ・ 会議の参加者の意見や傍聴者のアンケートを見ると、原子力など科学技術に対する理解不足と、政治行政の理解不足を感じる。個人はわからないことを正当化せず勉強するべき。  
また、行政や原子力事業者は、しつこく情報提供してほしいが、限界があるのもわかる。やはりメディアに問題がある。
- ・ 東海村内で原子力事業が開始されて半世紀以上が経過したため、村生まれの子どもは比較的原子力リテラシーの高いことが考えられる（全国的に見ても優れた点だと思う）。そのため、今後東海村内での原子力政策への理解促進のためには、移住者（大人世代）へのアプローチが必要だ。
- ・ 個人的な意見ですが、原子力事業として福島事故がクローズアップされて悪いイメージしか報道及び意見交換が行われていないように思えます。再稼働か廃炉の話ではなく、事故があったからより安全（発電所での安全対策・避難計画など）になったと伝えられるようにしてもらいたい。

課題 ④	交付金の使い道がまちづくりに活かされていない
------	------------------------

改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付金の仕組みを理解，納得できるよう知識をつける。</li> <li>・ 交付金を用いた取り組みによる新しいサービスを活用する。</li> <li>・ リスクと受け取るメリットを両方理解し，個々人がそのバランスに納得する。</li> </ul>
	地域の 取り組み	
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付金の仕組みや全体像を，市民に理解してもらうための活動をこれまで以上に強化する。</li> <li>・ 原子力災害以外の災害にも強い村としてPRする（例えば，迷惑料としてとらえるのではなく，村の特徴として村おこしに活かす）。</li> <li>・ 使い方の柔軟性を高めるよう国に要望する。</li> <li>・ （交付金の使われ方が限定されているので不可能かも知れないが）将来に向けて，村で一部貯蓄できるようにする。</li> <li>・ 交付金を活用して，東海村を外部からの避難場所にできるくらい安全な場所にする計画を立てる。</li> <li>・ [国] 交付金の使用用途の制限をさらに緩和し，広く活用できるようにする。</li> </ul>
	原子力 事業者の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・行政と協力したサービスを展開する。</li> </ul>

課題④のその他の意見

- ・ 恩恵は多大に受けているが，このままではいけない。
- ・ 立地自治体と周辺自治体の不平等感をなくす。

課題 ⑤		交付金がなくなることを想定した議論がされていない
改善 提案	個人の 取り組み	
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付金がなくなったとしても，それを賄うことができる魅力づくりに取り組む。</li> </ul>

	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村役場に交付金がなくなった後の対応についての検討組織をつくる。</li> <li>・ 原子力に頼った財政が危ないことは村も承知していると思うので、今できる方法で対策を検討する。</li> <li>・ 足りなくなる分の財源づくりに取り組む。</li> </ul>
	原子力 事業者の 取り組み	

課 題 ⑥		原発の廃止とその後について議論がされていない
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言出来る場で問題提起していく。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で考えを発言できる場をつくる。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職支援を行う。</li> <li>・ 村民・県民・国民の意見を求め、それに対して話し合う。</li> <li>・ 村役場に、東海発電所の廃止措置完了後の対応についての検討組織をつくる。</li> </ul>
	原子力 事業者の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原発廃止後の産業のための研究に力を入れる。</li> <li>・ (東海発電所の廃止措置完了後の対応について)積極的に行政に働きかける。</li> </ul>

#### 課題⑥のその他の意見

- ・ 原発を廃止すると村の人口はどのようになるのか。
- ・ 原子力の運転期間は約40年といわれている。再稼働も難色を示しているが、東海村にある原発の稼働リミットはいつまでなのか。

## ■ その他の意見

【カーボンニュートラルをどうやって達成できるかわからない】

- ・ カーボンニュートラルの実践を決めた自治体の紹介があったが、細かく聞かないと東海村や他の自治体に適用できるのかわからない。ある意味実証実験であり、うまくいけば良い部分を取り入れると良いと思う。

【東海村の緑が減っている】

- ・ 開発が進むことで森林が伐採されていく。将来的に CO2 問題が心配。
- ・ 村土の何%緑地を確保する計画なのかを説明していく必要がある。
- ・ 定住推進による自然がなくなり砂漠化している。  
開拓が進み村の緑がなくなって来ている。村で、“開拓地の何%の緑を確保すること”を条例とする。

【水戸地方裁判所「東海第二原子力発電所運転差止等訴訟」判決に係る村長談話に関して】

- ・ 文中、下から5行目「将来における私なりの判断～」とあるが、立場上「決める」事が役割であり責任だと思う。「将来」と濁さず、正解不正解ではなく、東海村の為にも立ち位置を明確にして欲しい。

【その他】

- ・ 東海ステーションギャラリーで展示をされている方と直接話をして、「これがもし東海村でおこったら」と考え、正直、複雑な気持ちになった。でも原発をなくそうとは思えない。何故だろう。
- ・ 有識者の方の意見が片寄り過ぎ。かつ発言が長い。もっと参加者の方々の意見や話が聞きたい。
- ・ やはり時間が足りない。もっともっと参加者の話も聞きたいし、村長の思い等もしっかり聞きたいと思う。